

# 医療技術学部

学校推薦型選抜(一般) 小論文

問題 以下の文章を読み、設問（問1、問2）に答えなさい。

ある人が、子を法師にして、「学問いんがおうほうをして因果応報の道理も知り、説教などして生活する手段にもせよ」といったので、親の教えに従って、説教師になろうとするために、まず馬こしに乗ることを習った。輿こしや牛車どうしをもたない自分が、もし法事の導師として招かれたようなとき、馬などを迎えに寄越した場合には、尻よこの座りが悪くて落ちでもしたら、つらいだろうと思ったからである。次に、法事のあとで、もし施主せしゅが酒などを勧めるようなことがあった場合に、法師でまったく芸のないのは、施主も興そうかざめに思うだろうと思って、早歌というものを習った。この乗馬うまと早歌けいこのふたつのことが、だんだんと熟練の境地に入ったので、ますます巧うまくしたいと思って気を入れて稽古けいこしている間に、とうとう説教を習うはずの暇がなくて、歳を取ってしまった。

この法師だけではなく、世間の人々にも、一般にこれと同様のことがある。若いうちには、なにごとにつけても立身出世し、大きな道とも成し遂げ、芸能も身につけ、学問もしようと、将来にわたって計画していることを心には掛けながらも、一生はのんびりと長いものだと考えて怠なまけては、まず差し当たりの目前まぎのことにばかり取り紛れて月日を送るので、どれもこれも完成することなく、身は老いてしまう。結局は一道の名人にもならず、思ったように立身出世もせず、後悔しても取り返せる年齢ではないので、走って坂を下る車輪おとろのようにどンドンと衰えていく。

出典：荻野文子著「へたな人生論より徒然草」河出文庫より改変

### 問1

この文章から読み取れる教訓を200字以内で簡潔に述べなさい。

### 問2

上記の教訓をもとに、あなたの考える大学卒業後における学びについて、900字以内で述べなさい。